



糖尿病のお薬について①(飲み薬編①)

糖尿病の治療の基本は、食事療法と運動療法ですが、それでも血糖管理が難しい時に薬物療法が開始されます。2009年頃から糖尿病の薬としては久しぶりに新しい治療薬が発売され、治療の選択肢が広がりつつあります。

糖尿病の治療薬には、大きく分けて、飲み薬と注射薬があります。まずは、飲み薬にはついてお話ををはじめたいと思います。飲んだ後どんなふうに効いているのか(作用)、なぜ食前に飲む必要があるか、日頃どんなことに注意したらいいかにポイントをおきました。是非お手元にお薬手帳やお薬の説明書をおいて、自分が飲んでいる薬を確認しながらお読みください。



スルホニル尿素薬 (SU薬)

名前 ()はジェネリック薬品	グリミクロン (グリクラジド、グルタミール、ダイアグリコなど) アマリール (グリメピリド) オイグルコン、ダオニール (グリベンクラミド、フラトゲンなど)
作用	すい臓を刺激し、血糖を下げる働きのあるインスリンがたくさん出るようにします。
注意	常にブドウ糖を持ち歩くなど、低血糖に対する備えが必要です。飲み薬は体の中から薬がなくなるまで効果が持続するため、低血糖になった場合は、一度低血糖が回復しても、時間をおいて低血糖を繰り返すことがあります。



速効型インスリン分泌促進薬

名前	ファスティック、スターシス、グルファスト、シュアポスト
作用	速やかにすい臓を刺激し、血糖を下げる働きのあるインスリンがたくさん出るようにし、食後の血糖上昇を抑えます。
注意	飲んだら速やかに効いてくるので、必ず 食直前 に飲んで下さい (いただきます!の時に)。30分前に飲むと食事中に低血糖を起こす可能性があります。食後に飲むのも危険です。常にブドウ糖を持ち歩くなど、低血糖に対する備えをしてください。



DPP-4阻害薬

「ディーピーピーフォー
そがい薬」と読みます。



名前	ジャヌビア、グラクティブ、エクア、ネシーナ
作用	小腸から分泌されるインクレチンというホルモンが分解されにくいようにすることで、インクレチンの働きを強めてインスリンの分泌を促進します。
注意	飲み始めた頃に、便秘や吐き気が出ることがあります。 SU薬と併用している場合には、常に低血糖に対する備えをしてください。